2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　　科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	英会話		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期　月曜3限	教室名	401
担 当 教 員	ILC講師	実務経験とその関連資格	英語教授に関する資格を保持し、基礎英語や医療英語の教授に関わる。			

《授業科目における学習内容》

主に高校時代に既に学んだ英語の文法や語彙に関する知識の復習と、ネイティブ講師とのスピーキングやリスニング練習を通じ、日常の様々な場面において自分の伝えたいことを自分の言葉で表現する方法を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 出席:20%
3. 授業態度:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「Speak Now 1」Jack C. Richards/ David Bohlke, Oxford University Press

《授業外における学習方法》

授業を受けるにあたり、中学と高校の英語の復習をしておきましょう。
オンラインでの学習(リスニング、文法など)が可能です。

《履修に当たっての留意点》

受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。
基礎英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	初対面の相手に対し、適切な挨拶ができるようになる Can greet people and take leave	Speak Now	中学・高校までの英語の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	イントロダクション 初対面の挨拶～お別れまでの会話 How are you? Introductions		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分のこと、相手のことを英語で述べられるようになる Can introduce oneself and others, ask for personal information	Speak Now	教科書 L.2&3 を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.2&3 自己紹介、友人の紹介、パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問に対する受け答え introducing yourself and others, asking for personal information		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	興味のあること・ないこと、好みについてについて述べられるようになる Can express likes and dislikes Can talk about favorites and use return questions	Speak Now	教科書 L.5&6 を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.5&6 好き・嫌い等の好みについての会話 expressing likes and dislikes, asking about favourites		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分の意思を相手に伝え、尋ねることができるようにになる Can ask for and give opinions	Speak Now	教科書L.8を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.8 意見を尋ねる、意見を述べる。お誘いを受けた際の返答の仕方を学ぶ asking for & giving opinions, giving and responding to invitations		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族など周りの人、自分の性格を伝えられるようになる Can ask about and describe family members,Can describe and compare personalities	Speak Now	教科書L.9&10を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.9&10 家族や性格についての会話 describing and asking about family members, comparing personalities		
授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容

第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ファッションについて話し、人を褒めることができるようになる。 Can ask about, describe and offer compliments about outfits	Speak Now	教科書L.11&12を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.11＆12 人を褒める＆褒められた際の会話表現を学ぶ。(衣服など)着ているものに関して述べる giving and responding to compliments, describing what people are wearing		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な表現を用いて、時間や習慣について説明ができるようになる Can ask follow-up questions about food	Speak Now	教科書L.7,13,14を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.7,13&14 時間についての表現方法を学ぶ。日々の習慣について話す＆質問する using time expressions to talk about daily routines, asking following up questions		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	道案内ができるようになる Can ask about and describe locations. Can give directions and ask for clarification.	Speak Now	教科書L.19&20を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.19&20 道案内をする、場所を尋ねる directions		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	買い物時の受け答えができるようになる。価格交渉ができるようになる。 Can ask about and give prices, Can ask about and describe frequency.	Speak Now	教科書L.21&23を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.21&23 数やお金の数え方、価格や頻度についての質問や受け答えを学ぶ prices and habits		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	レストランで料理を注文できるようになる Can ask about a describe food.	Speak Now	教科書L.28を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.28 料理の味や材料についての表現を学ぶ レストランでのオーダー方法を学ぶ dishes & menus		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	旅行などの経験について話すことができるようになる Can ask and talk about past events	Speak Now	教科書L.29&30を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L. 29 - asking about past events L. 30 - describing past events (16 week syllabus)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	リアクションを取りながら会話できるようになる Can react to news.	Speak Now	教科書L.31を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.31 自分の体験について話す＆それに対するリアクションや返答方法を学ぶ news		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	旅行の予定や将来のことについて述べられるようになる Can ask about and describe future plans.	Speak Now	教科書L.32を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.32 週末や未来の予定について話す the future		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	学期末試験の復習が自宅でもできるようになる	Speak Now	教科書(学んだ範囲)の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	Review of materials studied to date		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	試験前最終復習と試験の実施 Review	Speak Now	これまでに学んだ教科書、配布プリントをよく読み、理解する。
		各コマにおける授業予定	Review before the test and the Final test		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	福祉英語	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　金曜2限	教室名	401
担当教員	ILC講師	実務経験とその関連資格	英語教授に関する資格を保持し、基礎英語や医療英語の教授に関わる。		

《授業科目における学習内容》

専攻分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけ、実習先や職場での英会話が体験できる。

《成績評価の方法と基準》

検定試験 100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

Let's Study Welfare in English 英語で福祉を学ぼう(NPO法人 医療福祉英語検定協会)
福祉英語専門用語集(NPO法人 医療福祉英語検定協会)

《授業外における学習方法》

用語集を使って、語彙の暗記に努める。

《履修に当たっての留意点》

福祉英語検定4級合格に向けて、英語を楽しく勉強しよう！
積極的に授業に参加してください。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	患者様に向けた挨拶ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L1を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	イントロダクション、L1 挨拶		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	部屋への案内、器具や備品の使い方を説明できるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L2を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L2 場所に関する表現を学ぶ		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	好き嫌いについて尋ね、食事の案内ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L3を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L3 食事の時間と好き嫌いについて学ぶ		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	食事介助をするにあたり、説明や提案ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L4を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L4 食事介助時の表現方法を学ぶ		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	園児や保護者との会話ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L5を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L5 保育施設でのコミュニケーションの取り方を学ぶ		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	測定時の説明、また測定結果を伝えられるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L6を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L6 体温と脈拍測定についての表現を学ぶ		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	測定時の説明、また測定結果を伝えられるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L7を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L7 血圧測定についての表現方法を学ぶ		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	身体介助時の説明ができ、提案や勧誘もできるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L8,9を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L8、9　身体介助の表現方法を学ぶ		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	利用者の要求を理解できるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L10を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L10　利用者の要求に沿った様々な動作の表現を学ぶ		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手順の説明や指示が出せるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L11を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L11　マッサージの表現について学ぶ		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	同僚へ利用者について英語で説明できるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L12を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L12　利用者についてのミーティングについて学ぶ		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検定試験に向けた復習を自宅でもできるようになる	英語で福祉を学ぼう	検定試験に向けた復習をすること
		各コマにおける授業予定	総復習を行う		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	本講義内容を理解し、福祉に関する基礎的な英語を表現できるようになる。	英語で福祉を学ぼう	検定試験に向けた復習をすること
		各コマにおける授業予定	福祉英検4級を受験する。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	本講義内容を理解し、福祉に関する基礎的な英語を表現できるようになる。	英語で福祉を学ぼう	検定試験で分からなかった表現などを整理すること
		各コマにおける授業予定	福祉英検4級の振り返りを行う		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	これまで学んだ英語表現を使って会話をすることができる	英語で福祉を学ぼう	これまで学んだ事の復習をすること
		各コマにおける授業予定	学期末の総復習をロールプレイを交えて行う		

2026　年度　授業計画（シラバス）　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	介護福祉研究	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　金曜3限目	教室名	501・502・PCルーム
担当教員	上村　茜	実務経験とその関連資格	関西国際大学大学院にて修士課程を修了。臨床心理士、公認心理師の資格を所持し、カウンセラーとして勤務している。		

《授業科目における学習内容》

高齢者・家族にとってのより良い生活、楽しみ、活動の支援・介助についてグループ研究として取り組む。
知識を専門的に身につけ、現場の気付きから科学的な手続きを通して幅広く共有可能な形にまとめて、論文を作成・発表することができる。

《成績評価の方法と基準》

グループ評価研究計画書70%、出席20%、平常評価点10%

《使用教材（教科書）及び参考図書》

教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦

《授業外における学習方法》

研究のテーマは、臨床の現場に数多く存在します。常に、クリティカルな考えが持つことが良い研究テーマと出会えます。ものの考え方など訓練することをおすすめします。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉研究では学生自らが主体的に行います。グループでの取り組みとなるため、お互いに協力して進めていきましょう。教員はあくまでも助言する立場であるため積極的に進めてください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究への取り組み、スケジュールを説明することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	オリエンテーションを開き、研究テーマの見つけ方を説明できる		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで議論し、仮説を設定し研究計画書を立案することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	なぜ研究を行うのか、介護の領域における問題点を知る		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	関心のあるテーマを見つけることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	CQ、RQを理解し、興味のあるテーマを絞る		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	日常で感じている疑問を、他者と共有し研究につなげることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	他者と疑問や課題について話し合い、新しい発見を得る		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	興味、関心あるテーマについて文献検索することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	文献検索の手法を理解することができる		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	先行研究をまとめ研究内容とすり合わせることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	先行研究をもとに研究テーマを絞りこむ		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究の種類、方法を説明することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	質的研究と量的研究について理解する		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	テーマ別で仮グループを作り、仮テーマを決めることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	研究仮グループ研究計画書「テーマ」について理解する		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究計画書「テーマ」について説明できる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	仮テーマで研究計画書を作ることを理解する		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究計画書「動機・背景」について説明することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	研究動機、研究の背景を文献からまとめることを理解する 何が明らかになって、明らかになっていないかを理解する		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	目的、倫理的配慮、仮説を説明することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	研究計画書「方法、倫理的配慮、仮説」について理解する		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	方法、倫理的配慮を説明することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	研究計画書「方法、倫理的配慮」について理解する		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	テーマを絞り、背景、目的、意義、仮説の整合性はあるか議論できる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	グループ、担当教員を発表し、今後の計画について講義する 研究計画書の作成		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで議論し、仮説を設定し研究計画書を立案することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	研究計画書の作成、調査の準備を適切に行う		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究の意義や重要性について考えをまとめることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	研究計画書や調査方法など振り返り進捗を確認する		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護福祉特講		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期　水曜日4限目	教室名	501
担当教員	松田若那/上木大雅	実務経験とその関連資格	(松田)社会福祉士として様々な現場で働きながら社会福祉専攻科の非常勤講師として勤務。R5年度から専任教員へ。 (上木)介護福祉士として老健で5年勤務後、美作スポーツ専門学校で専任教員となり、その後大阪保健へ。			

《授業科目における学習内容》

介護の教育効果を上げるため、また、介護福祉士としての職業適性に磨きをかけるために、指定科目以外での課外授業や施設見学、卒業生や上級生、他学科との交流の機会、枠にとらわれない介護福祉士に必要な知識や技術の能力等に相互的に役立てることができる。

《成績評価の方法と基準》

レポート課題(70%)参加度(30%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習　第2版(中央法規)

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回の授業内容についての確認をするので、復習しておくこと

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士について職業理解ができ、必要な知識や技術を身につけることがでるよう、意欲的に取り組む。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	クラスメイトと話す機会が得られ、学校生活にスムーズに馴染むことができる。	ワークシート PPT	教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(アイスブレイク、自己紹介)		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	就職フェアに参加するにあたってのマナーについての確認と認識ができるようになる。	就職フェア冊子 PPT	就職フェアの冊子に目を通し、話しを聞いてみたい施設について調べ学習を行う
		各コマにおける授業予定	就職フェアについて		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	快適な生活をサポートする便利なシステム等の情報収集ができる。 体験を通じて様々な福祉・支援方法を体感し、疑問に思ったことを質問することができる。	課題レポート	どのような企業が参加するのかを事前に確認し、話を聞いてみたい企業について調べ学習を行う
		各コマにおける授業予定	バリアフリー展に参加		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	業界研究を通じて、自分の就職についてのビジョンを考えるキッカケ作りが行える。	就職フェア冊子 参加レポート 事前学習シート	就職フェアの冊子に目を通し、話しを聞いてみたい施設について調べ学習を行う
		各コマにおける授業予定	就職フェアに参加		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	就職フェア参加時の自分のマナーについて振り返り、今後の課題を明確にする。話しを聞いた施設の感想シートを記入し、グループワークで意見を共有することが出来る。	就職フェア冊子	就職フェアで話しを聞けた施設についてプリントにまとめる
		各コマにおける授業予定	就職フェアの振り返り		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークで施設種別について調べ、理解を深めることができる。 一人ひとりがグループの中での自分の役割を理解して分かりやすく発表することができる。	ワークシート PPT 最新　介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	グループで集まり発表に向けて準備する。
		各コマにおける授業予定	施設種別の理解を深め、グループごとに発表を行う		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習に向けた心構え（身だしなみや態度、社会マナーなど）への理解が深まり、実習準備に入る準備ができる。	ワークシート PPT 最新　介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	業界から求められる実習生、介護福祉士としての姿を自分なりに想像し、グループワークに積極的に参加できるよう準備を行う。
		各コマにおける授業予定	求められる介護福祉士像について考え、共有する。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	施設の特徴について理解ができ、わからないことは質問することができる。	事前学習シート 参加レポート	事前学習として施設調べを行い、施設の役割について理解する。
		各コマにおける授業予定	施設見学		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	施設見学を通じて学んだこと、気づいたことをグループワークで共有し、第6回の授業内容に繋げて施設種別について理解を深めることができる。 実習へ向け、現場のイメージを持つことができる。	事前学習シート 参加レポート ワークシート	参加レポートに施設見学の内容をまとめ、施設種別や
		各コマにおける授業予定	施設見学の振り返り		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	フィールドワークの準備の実践に向け、対象者の理解を深めることができる。	最新　介護福祉士養成講座14 障害の理解　第2版	グループで集まり発表に向けて準備する。
		各コマにおける授業予定	フィールドワークの準備		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	クラスメイトと協働し、連携することの大切さを理解することができる。	ワークシート	各クラスにて企画・運営
		各コマにおける授業予定	学年交流会を開催し、前期の振り返りを行う。各クラスで共同し企画・運営を行う		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習へ行く目的を理解し、目標を立て、実習をまえにしての下書きができる。	最新　介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習目標、実習を前にして（下書き）		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習書類の種類を把握し、下書きを行うことができる。	最新　介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類、下書き		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習書類の種類を把握し、下書きを行うことができる。	最新　介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類、下書き		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習書類を確認してもらい、清書を提出することができる。	最新　介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類清書、事前学習について		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	手話と点字(手話)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期 金曜3限	教室名	402
担当教員	森川 茜	実務経験とその関連資格	大阪ろうあ会館手話講師		

《授業科目における学習内容》

聴覚障害者を理解し、聴覚障害者のコミュニケーション方法を学ぶ
聴覚障害者の日常生活の一助となる事を目的とする

《成績評価の方法と基準》

実技を伴う授業なので授業態度・実技試験を重視する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう」

《授業外における学習方法》

関連書籍など適宜紹介する

《履修に当たっての留意点》

手話は聴覚障害者がもつ言語であり、コミュニケーションには欠かせない手段です。
言いたい事を伝える 相手の言いたい事を理解しようとする事の大切さを学びます

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション 初対面の挨拶を手話で覚える 指文字で名前を表見できる	教科書	教科書を見ておくこと
		各コマにおける授業予定	第3講座 名前を紹介しましょう		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	表情・身振りの形を覚えることができる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第1・2講座 身振り・指さし・表情などを学びましょう		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	人物の表現の基礎となる家族の手話表現を覚える 自分の家族の紹介ができるようになる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第4講座 家族を紹介しましょう		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	聴覚障害者の生活を知ることができる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	聴覚障害者の生活を知る		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	趣味をテーマに自己紹介ができるようになる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第6講座 趣味について話しましょう		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介ができるようになる 自分をアピールしてみる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第9講座　自己紹介をしましょう　まとめ		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地名の手話を学び、住所、交通の方法を手話で表現できる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第8講座　住所を紹介しましょう		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介ができるようになる 手話で質問をする、質問に答えてみよう	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第9講座　自己紹介をしましょう　まとめ		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	仕事の手話表現を覚え、仕事をテーマに会話ができるようになる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第7講座　仕事について話しましょう		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	時の表し方を学ぶ 一日の生活を手話で表現できるようになる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第10講座　一日の流れについて話しましょう		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	時の表し方を学ぶ 過去・現在・未来の時を表す手話を学び、理解できるようになる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第11講座　一週間の流れについて話しましょう		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	時の表し方を学ぶ 過去・現在・未来の時を表す手話を学び、理解できるようになる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第11講座　一カ月の流れについて話しましょう		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	時の表し方を学ぶ 季節・月・年に関する手話の表現を学び、1年間の出来事を話すことができる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第12講座　行事の計画について話しましょう		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で伝えてみることができる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	全体の到着度の確認		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で伝えてみることができる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	全体のまとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	人間関係とコミュニケーション		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期 火曜3・4限	教室名	401・402
担当教員	松原千加子	実務経験とその関連資格	社会福祉士として高齢者分野の居宅介護支援事業所に勤務。また、第三者委員、評議員を経験。社会福祉士、精神保健福祉士資格所持。現在、精神科クリニックにて勤務。			

《授業科目における学習内容》

対人援助関係形成の基礎となる人間関係とコミュニケーションを人間の多面的な理解をもとに、介護福祉士としての倫理基盤、コミュニケーションの基礎、チームで働く能力の基礎について、基礎知識を習得し、介護福祉士としての支援の視点を理解する。

《成績評価の方法と基準》

定期試験70%、授業態度10%、出席20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

参考図書「介護福祉士養成講座「人間の理解」中央法規、「老人・障害者の心理」ミネルヴァ

《授業外における学習方法》

前回の授業内容の確認テストをもとに、各テーマの重要な基礎知識について復習を行う。

《履修に当たっての留意点》

高齢化が急速に進む中、高齢者を取り巻く環境も複雑化、多様化している。社会の変化に伴い、利用者の尊厳を守りながら、どのような支援ができるか、介護福祉士に求められる役割について、考えていきましょう。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間らしさの始まりについて理解することができる。	配布レジメ・資料	毎時授業で実施する確認テストを復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	人類の進化、人間らしさとは何かについて学び、介護福祉士としてのあり方を理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分と他者の価値観、認識の違いについて理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で講義した「人間らしさの始まり」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	自分を形成する二つの要素、自己理解、他者理解について学び、対人援助職としての自己覚知の必要性を理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達心理学からみた人間関係について理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で講義した「自分と他者の理解」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	人間の段階的な発達、パーソナリティーの発達と人間関係について学び、個々の発達段階の課題を理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会心理学からみた人間関係について理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で講義した「発達心理からみた人間関係」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	対人認知と対人感情、集団の中の人間関係」について学び、社会の中での他者、集団への関わり方、人間関係に与える影響を理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間関係とストレスについて理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で講義した「社会心理学からみた人間関係」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ストレスの仕組み(ストレス反応とストレッサー)の仕組みについて学び、ストレスコーピング、周囲からのソーシャルサポートを理解する。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの概念について理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で講義した「人間関係とストレス」についての確認テストを復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションの基礎構造について学び、メッセージの意味、送り手と受け手、コミュニケーションを促す環境とは何かを理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの手段について理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で実施した「コミュニケーションの概念」についての確認テストを復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの種類とメッセージについて学び、関係性によるあいさつの違いとメッセージについて考える。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	対人援助の基本となるコミュニケーションについて理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で実施した「コミュニケーションの手段」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	人間関係の発展とコミュニケーション、人間関係の衰退とコミュニケーションについて学び、援助者としてのコミュニケーションの基礎を学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間関係とコミュニケーション上の配慮について理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で実施した「対人援助の基本となるコミュニケーション」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	アサーティブ・コミュニケーションについて学び、、他者の気持ちに配慮した上での自分の意見や主張を伝える方法を理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	対人援助における基本的態度について理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で実施した「人間関係とコミュニケーション上の配慮」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	受容、傾聴、傾聴について学び、対人援助の基本的姿勢を理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則について理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で実施した「対人援助における基本的態度」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	バイスティックの7つの原則について学び、介護福祉士が援助関係を形成していく際の基本的な方法を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織の条件とコミュニケーションの特徴について理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業で実施した「バイステックの7つの原則」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	組織の条件とコミュニケーションの特徴について学び、組織において求められるコミュニケーションを理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織における情報の流れについて理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業「組織の条件とコミュニケーションの特徴」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	トップダウン、ボトムアップ、メンバーシップのコミュニケーションについて学び、組織において求められるコミュニケーションを理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織において求められるコミュニケーションについて理解することができる。	配布レジメ・資料	前回の授業「織における情報の流れ」についての確認テストに向け、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	報告・連絡・相談の情報の流れ、集団討議、ブレインストーミングについて学び、組織において求められるコミュニケーションを理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期の各テーマについて振り返り、当該科目への理解を深めることができる。	配布レジメ・資料	今までの確認テストを復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「人間関係とコミュニケーション」についての講義の総括、振り返りを行う。		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	現代社会と職業	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　木曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	小寺　利恵子	実務経験とその関連資格	人材育成の会社にて、病院・企業等の新入社員研修に従事し、専門学校等でサービス接遇・秘書・コミュニケーション・ビジネス文書・語彙読解・ニュース検定等を指導		

《授業科目における学習内容》

ニュース時事能力検定は、新聞やテレビのニュース報道を読み解き、活用する力を養い現代社会の出来事を多角的・公正に理解・判断し総合的な知識・思考力・判断力を養うことが出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:ニュース検定基礎編 3・4級　・ 理解力UPシート①～㉑

《授業外における学習方法》

毎日の新聞・テレビのニュース、現在、世の中で起きていることに興味を持ち、分からないことは調べ、ニュースを通して家族・友人と意見を交換し合い、社会とどのように関わっていくべきかを学ぶ。

《履修に当たっての留意点》

高校の公民・地理歴史などの学習、新聞やテレビの主要なニュースを現実の社会と関連付けて深め理解しましょう。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	民主主義・一票格差を考える。日本国憲法・9条改正とは。皇位継承・主な国々との外交について理解できる。	ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート①②③	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域づくりの基となる地方自治について考える。日本経済(政府の経済対策)・世界経済の見通しについて考えることができる。	ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート④⑤⑥	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	これからの日本の産業・エネルギー・人口減少(少子化の背景と今後)・社会保険の基本を理解することができる。	ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート⑦⑧⑨⑩	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	労働者の権利・ヤングケアラー・共生社会について理解できる。	ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート⑪⑫⑬	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	司法と市民(健康被害の救済を後押し)・裁判員・情報社会を理解することができる。	ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート⑭⑮	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	コロナウイルス・ゲノム編集・ガン等にこれからどう向き合うのかを知り、考える。多様化する災害の影響・地球環境を守るための取り組みを理解できる。	ニュース検定基礎編3・4級　理解力UPシート⑯⑰⑱	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	対立する中国とアメリカは協調出来るか・核兵器と向き合う世界・SDGsについて考えられる。	ニュース検定基礎編3・4級　理解力UPシート⑲⑳㉑	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れを理解出来るようになる。	ニュース検定3・4級過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えて現在までを振り返り、過去問題を演習し、理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ビジネス文書の構成を理解し、社内文書・社外文書を作成することが出来るようになる。	ビジネス文書の資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ビジネス文書の構成を理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	ビジネス文書の構成を理解し、社内文書・社外文書を作成することが出来るようになる。	ビジネス文書の資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ビジネス文書の構成を理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	儀礼的な手紙を書けるようになる。（実習後の礼状）	ビジネス文書の資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	縦書きの手紙の書き方を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の季節の行事が理解出来る。	日本のしきたりの資料・年賀状の資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	年賀状について・日本の様々な行事を理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の季節の行事が理解出来る。	日本の行事の資料	後期テストの備えて、これまでの授業を振り返り復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	1年を通しての日本の様々な行事を理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期テストに備えての復習	ニュース検定基礎編3・4のまとめ	後期テストに備えて、これまでの授業を振り返り復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	後期まとめ。確認。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期テストに備えての復習	ニュース検定基礎編3・4のまとめ	後期テストに備えて、これまでの授業を振り返り復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	後期まとめ。確認。		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	現代社会と職業		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期　水曜3.4限	教室名	401・402
担当教員	小寺　利恵子	実務経験とその関連資格	人材育成の会社にて、病院・企業等の新入社員研修に従事し、専門学校等でサービス接遇・秘書・コミュニケーション・ビジネス文書・語彙読解検定・ニュース検定等を指導			

《授業科目における学習内容》

ものの見方や考え方の多様化が進んでおり、コミュニケーション力がますます重要度を増している。コミュニケーション力を高めるには、自己変革をする。人の気持ちを汲む力を高める。自分の気持ちや考えを効果的に伝えるコミュニケーション技法を身につけることが出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:コミュニケーション　スキルアップ検定　・　関連資料配付

《授業外における学習方法》

人はコミュニケーションなしでは生きていけない。人との関係の中で生きていかなければならない人間にとって、コミュニケーションは重要な道具である。授業の中で学習したことを実生活の中でも積み重ねていくと、コミュニケーション力を向上させることが出来る。

《履修に当たっての留意点》

コミュニケーションの基本はツーウェイであり、一方的に話し、聴くワンウェイのコミュニケーションでは成立しません。ツーウェイのコミュニケーションを阻むものは、第一に送り手、受けて、双方の好き嫌いの感情、先入観です。第二に価値観が異なることです。それらをしっかり理解しましょう。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	基本的な社会的スキルを学べば良好な人間関係を築くために必要であるということが理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	社会的スキル。職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	円滑なコミュニケーションを図るためには挨拶・正しい敬語が必要であると理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	社会的スキル。職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	電話応対・接客等は、最初の応対で会社の第一印象が決まるためこれらの知識と技術は、コミュニケーションをスムーズにするきっかけと理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	社会的スキル。職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	文書作成。ビジネス文書は、正確・簡潔・明瞭に作成することが大切であると理解でき、また、作成できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	社会的スキル。職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーション＝伝え合って共有することだと理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションとは何かを理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	どのように話し、聴くことが望ましいのか、グループでの会話では何に気を付けなければならないのかを、具体的に理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	基本的対話スキル。対話を通してよいコミュニケーションをするための基本を学び理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	円滑な人間関係を築くためには、基礎となる5つの表現手段を理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	自己表現スキル。人間関係を円滑にするための伝え方の基本と表現手段を理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間関係が複雑な仕事を円滑にするための4つの表現手段を理解することが出来る。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	自己表現スキル。仕事上で必要される伝え方の基本と表現手段を理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	顧客の望むことを自分のできる限り行う。それを自分の喜びとすることがサービスのすべてであり、サービスとは顧客満足度を高めるものだと理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	サービスマインド。感動を与えるサービスとは自分自身が生き生きとサービスを提供することが基本であることを理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れが理解出来るようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回までの振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れが理解出来るようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回までの振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れが理解出来るようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回までの振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れが理解出来るようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回までの振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションについて理解をし必要な知識、技能を学ぶことが出来たか振り返ることができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	前期テストに備えて、これま　での授業を振り返り復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	前期まとめ。前期テストに備える。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションについて理解をし必要な知識、技能を学ぶことが出来たか振り返ることができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	前期テストに備えて、これまでの授業を振り返り復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	前期まとめ。前期テストに備える。		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	生命科学Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　木曜1.2限	教室名	401・402
担当教員	翠　ちか	実務経験とその関連資格	看護師(38年　病棟(外科・透析関連・手術室・外来)勤務経験) フットケア指導士、医療的ケア教員		

《授業科目における学習内容》

身体各部の名称を覚える(正しく漢字で記入できる)　骨・筋肉・臓器　など
身体各部の正常な働きを理解する

《成績評価の方法と基準》

試験素点　70%　出席評価点　20%　平常評価点　10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

日本医科大学名誉教授　浅野伍郎　監修　成美堂出版 「からだのしくみ事典」 及び　配布資料

《授業外における学習方法》

教科書を使ってポイントを絞って覚えてもらう。解剖生理はすべての考えの土台となるため、苦手意識をなくして、取り組む。医療専門用語に慣れる。医療・介護関連などのニュースを見る。

《履修に当たっての留意点》

介護をしていく上で基本的な知識としてぜひ身体の仕組みに興味を持ってください。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳と神経のシステムについて理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	自分で教科書を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	身体各部の名称を知る・覚える 脳の働きを知る		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳と神経のシステムについて理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	身体各部の名称を知る・覚える 脳の働きを知る		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋肉つについて理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	骨と筋肉の名称を知る・覚える		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋肉つについて理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	骨と筋肉のそれぞれの役割の理解をする		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚器官について理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第3章を教科書に沿って学ぶ		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器官について理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第4章を教科書に沿って学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器官について理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第4章を教科書に沿って学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器官について理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第5章を教科書に沿って学ぶ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器官について理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第5章を教科書に沿って学ぶ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器官について理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第5章を教科書に沿って学ぶ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器官や生殖器官と内分泌について理解できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第6章を教科書に沿って学ぶ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液と循環器について理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第8章を教科書に沿って学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液と循環器について理解できる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第8章を教科書に沿って学ぶ		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞と遺伝について学びまとめることができる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第9章を教科書に沿って学ぶ 総まとめを行い、前期試験対策を行う		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	今までの学びをまとめ理解を深められる	教科書「からだのしくみ事典」	前回の授業内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	総復習　体が生活行動をどのように行っているのかを理解する		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護の基本Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期 水曜1.2限目	教室名	401・402
担当教員	坂本 愛子	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務。		

《授業科目における学習内容》

利用者及び自立に向けた介護実践に関わる概念や考え方を理解する。
介護の専門性の理解を深め、介護を「科学する力」を養う

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。
特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。実習後も振り返りを行い、実習での学びを結びつける。

《履修に当たっての留意点》

介護の基本について必要な知識を学びます。介護の専門職としての姿勢や考え方を理解し、介護福祉士としての基礎を身につけてい きましょう。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士を取りまく状況を理解することができる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・介護福祉、介護の基本Ⅰについて ・介護の成り立ちについて		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を取りまく状況について理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・介護の成り立ち、介護サービス		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	老人福祉法が成立した社会的背景を理解することができる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・「介護」が生まれた社会的背景 ・老人福祉法		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険法によって規定される、介護の範囲を理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・老人福祉法によって、規定された老人福祉施設 ・介護サービス内容の変化		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険法によって規定される、介護の範囲を理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・介護サービス内容の変化 ・社会福祉士及び介護福祉士法		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の定義規定の変遷について理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・社会福祉士及び介護福祉士法 ・定義規定		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の定義規定の変遷について理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・介護実践における基本的概念　・介護保険法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の定義規定の変遷について理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・訪問介護における介護サービスの内容 ・定義規定の変遷		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の基本となる理念を理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉職の支援行為の方向性		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の基本となる理念を理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・尊厳を支える介護 ・自立を支える介護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士及び介護福祉士法の概念を理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・社会福祉士及び介護福祉士法 ・介護福祉士が守るべき業務規程		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	・社会福祉士及び介護福祉士法の概念を理解できる。　・介護福祉士の活動の場と役割を理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・小テスト ・地域包括ケアシステム		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の活躍の場と役割を理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・介護予防 ・医療的ケア、災害時のケア		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士に求められる役割を理解できる。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・役割とその養成 ・専門職能団体		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期の学びにより、介護の全体像についての理解が深まり、まとめることができている。	・教科書　中央法規　最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	介護の基本Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　火曜3・4限	教室名	401・402・3F
担当教員	山本満佐子	実務経験とその関連資格	専門学校にて長年にわたりレクリエーション・インストラクター養成にたずさわっている。また、京都府レクリエーション協会で指導委員長として養成講習に携わっている。資格はレクリエーション・コーディネーター、スポーツレクリエーション指導者、障害者スポーツ指導員中級、コミュニケーションファシリテイター、レクリエーション・サポーター		

《授業科目における学習内容》

レクリエーションの考え方や社会における意義について、レクリエーションの一般的なイメージとそのイメージをつくり上げた背景を学び、今日の福祉領域を中心に変化してきたレクリエーションの捉え方を学ぶことにより、実践に必要な理論を理解し、介護現場でのレクリエーションの必要性を認識する。さらに介護の現場で個別の状況に応じた援助ができる知識を身につける。

《成績評価の方法と基準》

試験(実技・発表・提出物):70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

基本のアイスブレーキング・ゲーム
(参考図書)楽しさをとおした心の元気づくり

《授業外における学習方法》

学生の地元や大阪府、さらに各市町村のレクリエーション協会が開催するイベントやボランティア活動に進んで参加し、高齢者・障がい者を支える支援者にとってのレクリエーションのあり方を体験をすることで、自立支援につながるレクリエーションを体得する。

《履修に当たっての留意点》

高齢者・障がい者を支える支援者にとってのレクリエーションのあり方を理論を通して学ぶ。また模擬体験をすることで、自らが「楽しむこと」「笑顔でいること」の大切さを学び、さらに自立支援につながるレクリエーションについて学ぶ。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期授業説明・資格取得説明より、授業の流れ、趣旨、内容が理解できる	資格取得に関するプリント	ノートとファイルを準備
		各コマにおける授業予定	後期授業説明・資格取得に関して・体育館利用上の注意事項 授業の進め方、評価の方法などを説明する		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーションの概念と余暇生活、余暇時間の現状と課題が理解できる	関係資料配布	返却した課題プリントの間違い直し
		各コマにおける授業予定	レクリエーションの概念と余暇生活、余暇時間に関して講義		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション運動の歴史的背景が理解できる	関係資料配布	返却した課題プリントの間違い直し
		各コマにおける授業予定	レクリエーション運動の歴史とその背景について講義		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	ホスピタリティについて理解できる	関係資料配布	返却した課題プリントの間違い直し
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション・ワークの一つであるホスピタリティに関して講義		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	ホスピタリティ・トレーニングについて理解できる	関係資料配布	第4回で配布したプリントの見直し
		各コマにおける授業予定	提示された課題に対してホスピタリティを考えながら課題解決する		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション・インストラクターの役割が理解できる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	レクリエーション・インストラクターの役割について講義		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化について理解できる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化のちがいについて講義		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション援助計画APIEプロセスについて理解できる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	レクリエーション援助計画APIEプロセスについて講義		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	より効果的な集団への援助のために全体的に配慮すべき点について理解できる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	集団への援助のために全体的に配慮すべき点について講義		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	アイスブレーキングについて理解できる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	アイスブレーキングについて体験を通してその理論と技術を学ぶ		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるアイスブレーキングの展開を理解できる	グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	アイスブレーキング演習　1.		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるアイスブレーキングの展開を理解できる	グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	アイスブレーキング演習　2.		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるアイスブレーキングの展開を理解できる	グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	アイスブレーキング演習　3.		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるアイスブレーキングの展開を理解できる	グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し・ノート整理
		各コマにおける授業予定	アイスブレーキング演習　4.		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション・インストラクターにとって必要なことは何かを確認することができる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し・提出するノート準備
		各コマにおける授業予定	介護現場におけるレクリエーション・インストラクターの役割・まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護過程Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　木曜日4限	教室名	402
担当教員	上木大雅	実務経験とその関連資格	介護福祉士として介護老人保健施設にて5年勤務		

《授業科目における学習内容》

これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者に個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版(中央法規)

《授業外における学習方法》

介護実習において介護計画の立案・実施

《履修に当たっての留意点》

介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程を展開する意味を理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版(中央法規) 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護過程の概要を理解し、自分自身の生活課程の展開をワークシートに記入する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の意義を理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版(中央法規) 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活支援技術で学んだ内容を介護過程と繋ぎ合わせる		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の意義を理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版(中央法規) 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活における目的と目標の意義を理解するためにグループ討議する		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	アセスメントを理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版(中央法規) 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集→計画立案→実施→評価のサイクルを講義を通じて理解する		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版(中央法規) 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版（中央法規） 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版（中央法規） 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版（中央法規） 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	講義でICFについての理解を深める		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版（中央法規） 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版（中央法規） 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議しまとめる		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版（中央法規） 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議した内容を発表し学びを深める		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実際を学び理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版（中央法規） 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習施設で行われている支援（ケアプラン）を参考にアセスメントを解釈する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実際を学び理解することができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版（中央法規） 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習施設で行われている支援（ケアプラン）を参考に支援の内容を解釈し方法を理解する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、介護過程の実際について学ぶことができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版（中央法規） 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例問題に取り組む　解説		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、介護過程の実際について学ぶことができる	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版（中央法規） 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例問題に取り組む　解説		

2026　年度　授業計画（シラバス）　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	生活支援技術Ⅱ 理論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　火曜3・4限	教室名	401・402
担当教員	信田　かほり	実務経験とその関連資格	高齢者施設にて約10年間、介護福祉士として勤務。専門学校にて8年専任教員として勤務し、非常勤講師としても生活支援技術の演習・理論の授業を担当。		

《授業科目における学習内容》

・利用者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。
・基本的介護技術を習得するにあたり、原理・原則を理解し、自立支援・要介護者の個々の生活に違いがあることを理解する。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験(70%)　出席評価点(20%)　平常評価点(10%)

《使用教材（教科書）及び参考図書》

中央法規　最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」
中央法規　最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」

《授業外における学習方法》

教科書の指定部分の予習、復習（小テスト勉強）

《履修に当たっての留意点》

・どの介助においても利用者の個別性を尊重し、ひとつひとつ根拠を持って理解すること

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	・生活支援について理解できる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・オリエンテーション（授業での注意点等説明、他己紹介） ・生活支援の基本的な考え方について学習する		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	・ボディメカニクスと主な姿勢について理解できる ・生活の豊かさや心身の活性化のための支援について理解できる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・ボディメカニクス、主な姿勢について学習する ・生活支援の基本的な考え方について学習する		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	・ICFの視点をもって利用者の全体像・個別性を知ることの大切さが理解できる ・介護過程を重視し、根拠が理解できる（グループワーク）	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト①（ボディメカニクス、主な姿勢） ・生活支援と介護過程について学習する ・ICFの視点に基づく生活支援について学習する（グループワーク）		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	・環境整備の重要性について理解できる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・グループワーク発表 ・環境整備の意義・目的について学習する ・小テスト②（ICFについて）		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	・環境整備の重要性について理解できる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・居室の環境（室内気候・照明・寝具）について学習する ・加齢にともなう身体機能の低下に対応した生活空間の整備に向けて、各室の留意点について学習する		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	・自立した移動のあり方について理解できる ・自立に向けた移動の介護について理解できる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト③（環境整備） ・自立した移動のあり方や廃用症候群・麻痺について学習する ・ボディメカニクスの基本、重要性について学習する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	・自立した移動のあり方について理解できる ・安楽な体位について理解できる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト④（移動） ・褥瘡の原因と予防、好発部位について学習する ・歩行の介助について学習する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	・自立した移動のあり方について理解できる ・車いすの介助について理解できる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	小テスト⑤（移動） ・車いすの構造と点検内容、使用方法について学習する ・車いすでの移動・移動の介助について学習する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	・安全、安楽な移動における福祉用具について理解できる ・移動に関する福祉用具の種類、使用方法について理解できる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑥（移動）） ・福祉用具の使用方法・留意点について学習する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	・利用者の生活における身じたくの意義と目的について理解できる ・自立に向けた身じたくの介護について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑦（移動） ・身じたくの意義と目的について学習する ・身じたくの介助について学習する（洗顔、洗髪、髭の手入れ）		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	・利用者の生活における身じたくの意義と目的について理解できる ・自立に向けた身じたくの介護について理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・身じたくの介助について学習する（爪の手入れ、耳の清掃、化粧、皮膚の清潔） ・利用者の状態に応じた整容の介助を学習する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	・口腔ケアに必要な介護技術の基本が理解できる ・口腔ケアに関する介護技術の根拠が理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑧（身じたくの介護） ・口腔ケアの意義、種類や効果について学習する ・口腔ケアを実施する前に必要な知識と技術について学習する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	・口腔ケアに必要な介護技術の基本が理解できる ・口腔ケアに関する介護技術の根拠が理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・義歯の種類や着脱方法、掃除法について学習する ・利用者の状態に応じた介助の視点について学習する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	・衣服の着脱に必要な介護技術の基本が理解できる ・衣服の着脱に関する介護技術の根拠が理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑨（口腔ケアについて） ・衣服の着脱の意義について学習する ・利用者の状態に応じた着脱介助について学習する		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	・前期に学んだ内容が理解できる ・前期試験に向けての対策ができる	最新・介護福祉士養成講座6、7「生活支援技術Ⅰ、Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・小テスト⑩（衣服の着脱について） ・前期のまとめ、試験対策		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護過程Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　水曜3限	教室名	401.402
担当教員	清水　公二・上木大雅	実務経験とその関連資格	(清水)介護福祉士、特別養護老人ホームにて約10年勤務 (上木)介護福祉士、介護老人保健施設にて5年勤務		

《授業科目における学習内容》

学生が介護福祉士としての基礎＋αの専門性や実践力を身につける。科目で学んだ内容を地域実践、高齢者施設実践を行い。計画、準備、実践、振り返りを通じて介護過程の展開を実践を通じて学び、体験する。

《成績評価の方法と基準》

課題提出・レポート提出:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座　介護過程

《授業外における学習方法》

地域実践、高齢者施設実践の実施および振り返り

《履修に当たっての留意点》

介護現場において利用者様のニーズはより個別化されています。学んだことを実践する流れを意識してください。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【心理コミュニケーション】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【心理コミュニケーション】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【アロマテラピー】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【アロマテラピー】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【メイクテラピー】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【メイクテラピー】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【スポーツ・リハビリテーション】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【スポーツ・リハビリテーション】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【スポーツ・リハビリテーション】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【スポーツ・リハビリテーション】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【ミュージックテラピー】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【ミュージックテラピー】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【ミュージックテラピー】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容に興味・関心を持ち、実習先や就職先での活かし方を学び、理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【ミュージックテラピー】 科目での学習内容を介護福祉士として介護現場での活用方法を知る。 科目での学習内容の知識、技術を理解できる。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習した内容を振り返り、自身の学びを実践に向けどのように活かすか理解できる。	・配布資料	関連する内容を事前に調べ質問を考える。
		各コマにおける授業予定	【後期まとめ】 学習した内容を振り返り、自身の学びを実践に向けどのように活かすかを考える。 グループワークを通じて学びの共有。		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	生活支援技術Ⅱ(演習)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期　月曜1～4限	教室名	介護実習室
担当教員	尾崎・上木・信田	実務経験とその関連資格	(信田)高齢者施設にて約8年間、介護福祉士として勤務。専門学校にて8年専任教員として勤務し、非常勤講師としても演習の授業を担当。 (上木・尾崎)特別養護老人ホームでの勤務を経て、専任教員として科目を受け持つ。			

《授業科目における学習内容》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの視点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習し、実践できるようになる。

《成績評価の方法と基準》

レポート課題・授業態度(10%)、出席(20%)、試験(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ(中央法規)、最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ(中央法規)

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士についての職業理解ができ、必要な知識や技術を身につけることができるよう、意欲的に授業に取り組む。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護技術の授業内容について理解できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材に目を通し、どのような内容の授業なのか把握する。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション・グループ分け		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	休息・睡眠環境を整える方法(ベッドメイキング等)を理解し、根拠を説明できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材第5章 休息・睡眠の介護を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	環境整備　シーツ交換　ボディメカニクス		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、理解できる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法　体位交換(上方移動・下方移動・水平移動・仰臥位から側臥位(対面法・背面法)		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、理解を深めることができる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を読んでお
		各コマにおける授業予定	①運動・移動の技法　体位交換(上方移動・下方移動・水平移動・仰臥 位から側臥位(対面法・背面法)復習 ②ベッドメイキング復習・臥床時のベッドメイキング		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ベッドメイキングのポイントを理解し、ボディメカニクスを活用した実践ができる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材第5章 休息・睡眠の介護を読んでお
		各コマにおける授業予定	ベッドメイキング試験		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、実践できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を読んでお
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法　体位交換（起き上がり・長座位・端座位・立位）		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	休息・睡眠環境を整える方法（ベッドメイキング等）を理解し、根拠を説明できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	車椅子での外出介護、杖歩行、視覚障害者体験運動		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、理解できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を読んでお
		各コマにおける授業予定	・移動の技法　ベッドと車椅子間の移動		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、実践できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を読んでお
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法　立位・起き上がりの介助		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、実践できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材第1章 自立に向けた身じたくの介護を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法　立位・起き上がりの試験		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	利用者の思いを確認した介護ができる。利用者の健康状態や状況を把握し、利用者にあった介護方法が選択できる。身じたくに必要な介護技術の基本が理解できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材第1章 自立に向けた身じたくの介護を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	着脱の介護　前開き・かぶり、ズボン・ゆかたの着脱法		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	前期で学んだ介護技術の基本を、利用者の状態に合わせて実践ができるようになる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ 最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	事例課題復習 /衣類の介護　ゆかたの着脱（説明）		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期で学んだ介護技術の基本を活用し、留意点や根拠を理解した上で手順を考え、実践ができる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ 最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	事例課題試験		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	自立した食事のあり方について理解する。さらに自立した食事の一連の流れを理解し、自立に向けた食事の介護をするために介護福祉士がすべきことを理解し、考える事ができる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材第2章 自立に向けた食事の介護を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	環境・身体の状況に応じた食事介助		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	前期で学んだ介助を振り返り、復習・実践を通して理解を深めることができる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ、最新介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	前期の振り返り・介護技術の復習・前期試験について		

2026　年度　授業計画（シラバス）

学　　科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	障害の理解		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期　木曜3・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	松田　若那	実務経験とその関連資格	社会福祉士を取得後、病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務。その後、相談支援専門員として児童の計画相談業務に従事。			

《授業科目における学習内容》

障害の概念、障害福祉の基本理念、障害者福祉制度を学ぶことで、介護福祉職が障害のある人と向き合うための基礎的知識を身につける。また、障害福祉を取り巻く最新の動向を理解し、障害のある人の自立に向けた生活支援の視点について学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

定期試験60%、授業態度10%、出席20%、振り返りシート10%

《使用教材（教科書）及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座14　障害の理解　（中央法規出版）

《授業外における学習方法》

テキストやレジュメに出てきた重要な語句、説明について各自で考え、工夫して覚えるようにする。
とくに、他の科目にも出てくる語句は重要なため、とくに意識して覚えるようにする。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士として関わる対象は高齢者だけでないことを認識し、障害の理解をする。ひとつの科目としてみるのではなく、他の科目と関連させながら学習し、幅広い知識や関心を深めていくようにし、イメージする力をつけてほしい。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害とは何かを考えることが出来る。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション。事例をもとに、障害とは何かについて考える。　　障害のとらえ方について、利用者・支援者双方の立場から考える。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉の基本理念について説明できるようになる。①	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	ノーマライゼーションの思想あゆみ、意義について理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉の基本理念について説明できるようになる。②	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの意義について理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉の基本理念について説明できるようになる。③	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	インクルージョンやその他の理念（エンパワメント、ストレングス）について理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉の基本理念について説明できるようになる。④	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	世界の障害福祉の流れ（世界人権宣言から国際障害者年、障害者権利条約まで）について理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害の概念（3つのモデル）について説明できるようになる。①	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害の3つモデル（医学モデル・社会モデル・統合モデル）について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害の概念（ICFとICIDH）について説明できるようになる。②	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	ICFとICIDHについて変更のポイントや実践への展開について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害の概念（法的定義）について説明できるようになる。③	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者の現状を理解する。障害者の法的定義と各障害者手帳について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる。①	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者総合支援法の成立までの流れについて理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる。②	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者総合支援法に基づくサービスについて理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる。③	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者差別解消法について理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる。④	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者虐待防止法について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる。⑤	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者の就労支援について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者の基礎的理解と特性に応じた支援について説明できるようになる。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	視覚障害の状態、特性、支援のあり方を理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期各テーマについて振り返り、当該科目への理解を深める。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害の概念と障害者福祉の基礎理念、障害福祉に関する制度について理解を深める。		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科　I部		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	こころとからだのしくみ I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期　火曜1.2限	教室名	401,402教室
担当教員	武部　奈緒子	実務経験とその関連資格	介護福祉士、看護師、保健師の国家資格に加え、養護教諭二種免許を保有。特別養護老人ホームや病院において実践経験を積み、近年は高等学校、専門学校、短期大学の講師を務める。			

《授業科目における学習内容》

からだの基本的なしくみの理解、こころがからだに及ぼす影響について学ぶ。また、生活の障害はどのようなメカニズムで生じるのか、それにどのように対応するのかを学び、学生が根拠を持って生活援助の妥当性について説明することができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)

《授業外における学習方法》

授業で学んだ内容をノート等にまとめ、生活援助技術などの他科目と関連づけて学習できるよう復習しておく。

《履修に当たっての留意点》

精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	こころとかだらどのしくみの講義内容について理解する 身体の名称を理解し、知識として身につけることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	教科書の目次を見て学ぶ内容を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 身体部位の名称		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間のこころとからだの関係性について理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・前回配布プリントを事前に復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	身体の名称小テスト① こころとからだの関係性について理解する 心身の調和　生命に維持と恒常性のしくみ　細胞・遺伝　身体部位の名称		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経系・末梢神経系について解剖や生理的機能を理解することができる□	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	身体の名称小テスト② からだのしくみについて理解する　脳・神経		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の構造や生理的作用について理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳・神経小テスト① からだのしくみについて理解する　骨・筋肉		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節・骨格筋の名称や種類、働きについて理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	骨・筋肉小テスト① からだのしくみについて理解する　骨・筋肉		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚器(視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚)について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	骨・筋肉小テスト② からだのしくみについて理解する 感覚器(視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の名称や肺の構造、呼吸のしくみについて理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	感覚器小テスト からだのしくみについて理解する 呼吸器系		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器管について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	呼吸器系小テスト からだのしくみについて理解する 消化器系(消化管・消化腺)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器腺について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	消化器小テスト① からだのしくみについて理解する 消化器系(消化管・消化腺)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿の分泌・排泄に関する臓器の解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	消化器小テスト② からだのしくみについて理解する 泌尿器(腎臓・尿路)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖器についての解剖や生理的機能ついて理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	泌尿器小テスト からだのしくみについて理解する 生殖器		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌(ホルモン)について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	生殖器小テスト からだのしくみについて理解する 内分泌		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の解剖や大循環・小循環のメイカニズムについて理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	内分泌小テスト からだのしくみについて理解する 循環器		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液・体液・リンパについて解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	循環器小テスト からだのしくみについて理解する 血液・体液・リンパ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活支援のために必要な、人間のからだの解剖や生理的機能、からだのメカニズムについて理解を深めることができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・後期授業内容の振り返りを行う事前に行っておくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	血液・体液・リンパ小テスト 前期講義の振り返り		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福士科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	医療的ケア Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　金曜 1・2限	教室名	401・402
担当教員	酒井順子	実務経験とその関連資格	看護師免許・医療的ケア教員講習会修了		

《授業科目における学習内容》

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職と連携のもとで医療的ケア(喀痰吸引と経管栄養)を安全・適切に実施できるよう必要な知識を習得する。

《成績評価の方法と基準》

学期末筆記試験80点＋授業態度(プリント記入含む)10点＋出席率20点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新・介護福祉士養成講座15　医療的ケア　第3版　　中央法規

《授業外における学習方法》

配布プリントと確認テストプリントで復習をしておくこと。

《履修に当たっての留意点》

授業中の問いかけに対し適切なコミュニケーションをとる。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療的ケアとは何かが理解できる。	教科書 配布プリント パソコン(パワーポイント)　プロジェクター使用	医療的ケアとは何か　関心、興味を持っておくこと。
		各コマにおける授業予定	医療制度とその変遷と介護職の専門的役割		
第2回	講義形式	通じての到達目標	医行為は法律的にどのような行為とされているか説明できる。	教科書 配布プリント パソコン(パワーポイント) プロジェクター使用	前回の授業内容を教科書、プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・医行為に関する法律 ・チーム医療と介護職との連携　・医療の倫理		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護職等が喀痰吸引等を実施するために必要な要件が説明できる。	教科書 配布プリント パソコン(パワーポイント) プロジェクター使用	前回の授業内容を教科書、プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・法改正の内容 ・改正法により実施可能となった医行為の範囲・条件		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	喀痰吸引等を安全に実施するために必要なことが理解できる。	教科書　配布プリント　パソコン(パワーポイント)　プロジェクター使用	前回の授業内容を教科書・配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・リスクマネジメント ・ヒヤリハット・アクシデントの報告の必要性と目的		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	AEDを用いた心肺蘇生の流れが説明できる。	教科書　配布プリント　パソコン(パワーポイント)DVD プロジェクター使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	救急蘇生がなぜ必要か DVDを用いて一次救命処置を視覚からもイメージする。・		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	標準予防策スタンダードプリコーションが理解できる。	教科書　　配布プリント　パソコン（パワーポイント）　　プロジェクター　使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・感染源について ・感染経路と予防策		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	適切な手洗い・手袋の外し方が習得できる。	教科書　　配布プリント　パソコン（パワーポイント）　　プロジェクター　使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・手洗い・手指消毒・使い捨て手袋 排泄物・吐物の適切な処理 消毒と滅菌		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	いつもと違う変化に気づく項目が説明できる。	教科書　　配布プリント　パソコン（パワーポイント）　　プロジェクター　使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・こころとからだの健康について ・印象的に主観的に健康状態を把握する項目		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	血圧測定方法のポイントとパルスオキシメーター装着時の注意点が説明できる。	教科書　　配布プリント　パソコン（パワーポイント）　　プロジェクター　使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・バイタルサインについて ・体温上昇の原因について・血圧測定方法・パルスオキシメーター装着時の注意点　　・急変状態の把握		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	喀痰吸引チューブを挿入する部位とその機能を理解する。	教科書　　配布プリント　パソコン（パワーポイント使用）　プロジェクター　使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・呼吸器官の名称と機能 ・呼吸のしくみとはたらき		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸状態の変化を知る観察項目を説明できる。	教科書　　配布プリント　パソコン（パワーポイント使用）　プロジェクター　使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・正常な呼吸状態 ・いつもと違う呼吸状態 呼吸困難がもたらす苦痛と障害		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	痰を生じて排出するしくみを理解する。	教科書 配布プリント　パソコン（パワーポイント）　　プロジェクター　使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・痰を生じて排出するしくみ　・繊毛運動 ・痰の貯留を示す状態 ・貯留している痰を出しやすくするケア		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	痰の性状とその変化が説明できる。	教科書 配布プリント　パソコン（パワーポイント）　　プロジェクター　使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・通常の痰の性状 ・いつもと違う痰の性状の変化 変化とその推測される状態と対応		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	喀痰吸引が必要な状態を理解する。	教科書　　配布プリント　パソコン（パワーポイント）　　プロジェクター　使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・痰が増加している状態とは ・痰を排出しにくい状態とは ・痰がかたくなる要因		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	安全で確実な喀痰吸引を実施するための厳守項目が説明できる。	教科書　　配布プリント　パソコン（パワーポイント）　　プロジェクター　使用	前回の授業内容を教科書、配布プリントで復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・吸引チューブ挿入の深さ・吸引圧・吸引時間 ・吸引チューブ・清潔保持		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護総合演習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期 水曜3限目	教室名	501
担当教員	松田若那/上木大雅	実務経験とその関連資格	(上木)介護福祉士として介護老人保健施設にて5年勤務。 (松田)社会福祉士として様々な現場で働きながら社会福祉専攻科の非常勤講師として勤務。R5年度から専任教員へ。		

《授業科目における学習内容》

介護福祉実習の意義と目的が理解でき、実習に向けての準備、実習中の取り組みを考える。福祉施設の理解と多職種連携が理解できる。

《成績評価の方法と基準》

レポート課題(70%)参加度(30%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容に関わる確認プリントを実施するので、復習しておくこと

《履修に当たっての留意点》

実習に必要な知識、技術、介護過程の展開の能力を身につけることができるよう、意欲的に取り組む。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士養成教育全体のなかで「介護総合演習」がどのような位置づけになっているか理解する。介護実習の意義と目的を理解することができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)	使用教材2から27ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	介護総合演習について、介護福祉実習について		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	外部のイベントで福祉に触れ、実際に体感する。福祉用具などの知識を深める。	バリアフリー展資料	バリアフリー展に参加する意義・目的を理解する
		各コマにおける授業予定	バリアフリー展に参加		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	交流の幅を広げ、いろんな人と交流を図れるようになる。	レクリエーション教材	広いコミュニティで行動していくことの意味を理解しておく
		各コマにおける授業予定	2年生企画、新入生歓迎会に参加		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習前の意義と目的、実習に臨む態度や姿勢、実習後の学習の意義と目的を理解することができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)・実習と記録	使用教材40ページから75ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	介護実習準備、実習中、実習後の学び		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実習の取り組み、実習報告会での発表方法について学び、実習に活かせる知識を習得することができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)	自身のわからない単語等をリストアップし、質問ができるよう準備する。
		各コマにおける授業予定	2年生実習報告会に参加		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	動画や調べ学習、ワークを通して障がい者施設の特徴を知ることができる	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	使用教材185ページから196ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	施設種別（高齢者施設・障がい者施設）について知る		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	自身の介護観だけではなく、他者が考える介護観・社会が求める介護福祉士像について理解し、共有することができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	施設見学や学びを通して現時点で考える理想を思い起こしておく
		各コマにおける授業予定	求められる介護福祉士像について考える。（GW）		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習書類、実習日誌を書く目的、書き方を学び、書ける力を身につける。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）・実習と記録	使用教材40ページから75ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習日誌の書き方		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	プロセスレコードについての書き方を学び、他者とのコミュニケーションについて振り返ることができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）・実習と記録	使用教材40ページから76ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習記録、プロセスレコードについて		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集について学び、意義や目的が理解できる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護課程・介護実習第2版（中央法規）	使用教材38ページから40ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習におけるアセスメント（情報収集）について学ぶ。情報収集の意義目的		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集についてより理解を深め、利用者像を他者が見てもわかるように情報を集めるスキルを身につけることができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）・実習と記録	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習におけるアセスメント（情報収集）について学ぶ。情報収集の実践（グループワーク）		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習生としての姿を理解でき、実習向かう準備ができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）・実習と記録	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	自己覚知、理想の実習生についてのグループワーク		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習施設について調べ学習を行い、施設の特徴を理解できる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）・実習と記録	使用教材112ページから該当施設を読んでおく
		各コマにおける授業予定	実習施設の発表、実習施設を調べる。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習へ行く目的を理解し、目標を立て、実習をまえにしての下書きができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）・実習と記録	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類、下書き・清書		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習書類を確認してもらい、清書を提出することができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）・実習と記録	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類清書、事前学習について		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護総合演習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期 水曜日3限	教室名	402
担当教員	松田若那/上木大雅	実務経験とその関連資格	(松田)社会福祉士として様々な現場で働きながら社会福祉専攻科の非常勤講師として勤務。R5年度から専任教員へ。 (上木)介護福祉士として老健で5年勤務。美作スポーツ専門学校で教員経験後、大阪保健へ。		

《授業科目における学習内容》

介護福祉実習の意義と目的が理解でき、実習に向けての準備、実習中の取り組みを考える。福祉施設の理解と多職種連携が理解できる。

《成績評価の方法と基準》

レポート課題(70%)参加度(30%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)　滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容に関わる確認プリントを実施するので、復習しておくこと

《履修に当たっての留意点》

実習に必要な知識、技術、介護過程の展開の能力を身につけることができるよう、意欲的に取り組む。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅰ－①で必要な書類の清書ができる	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)	使用教材40から56ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	実習Ⅰ－①書類作成		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	事前オリエンテーションの準備、当日の流れについて理解できる	最新　介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」	使用教材40から56ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	事前オリエンテーションについて、電話のかけ方		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集について理解できる	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)	使用教材241から242ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	情報収集について(前期の振りと記録の記入方法)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	良い例、悪い例を見てカンファレンスの流れについて学ぶことができる。校章授与式に参加し、実習への心構えができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第3版(中央法規)	使用教材210から236ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	カンファレンスについて、校章授与式		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実習の意義と目的を再確認できる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)	使用教材57から63ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	実習直前指導		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習後の学習の意義と目的を理解する。実習後の学習内容を理解することができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	使用教材64から75ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	実習後の振り返り、実習報告会の準備		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習後の学習の意義と目的を理解する。実習後の学習内容を理解することができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	使用教材64から76ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	実習報告会		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	種類やサービス内容、利用者像など理解する。支援の視点を理解する。実習で学ぶべきポイントを理解できる	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第3版（中央法規）	使用教材112から148ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	高齢者施設について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習先について調べ、実習目標を考えることができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	使用教材112から148ページと、40から56までを読んでおく
		各コマにおける授業予定	施設配属発表、施設概要を調べる、実習目標を考える		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅰ-①で自分で書いた日誌を見直し、次回の実習の課題を明確にすることができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	使用教材40ページから66ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	日誌の振り返り		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習書類の清書の提出ができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	使用教材40ページから66ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類の完成		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の展開を軸にした介護実習の目的と目標を理解できる。ほかの科目で学習した内容を結びつけ、実習のイメージをふくらませる	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	使用教材238ページから248ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開、情報収集について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の展開を軸にした介護実習の目的と目標を理解できる。ほかの科目で学習した内容を結びつけ、実習のイメージをふくらませられる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	使用教材238ページから248ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開、情報収集、情報の分析		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の展開を軸にした介護実習の目的と目標を理解できる。演習を通じて、「自分が担当する利用者」という当事者意識のもとに介護過程を展開する。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	使用教材238ページから248ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開、情報収集、情報の分析、計画の立案		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅰ-①でのカンファレンスを振り返り、次回の実習の課題を明確にできる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版（中央法規）	使用教材238ページから248ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	カンファレンスについて		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	介護実習Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	96　(3)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　10月	教室名	実習施設
担当教員	松田　若那　他	実務経験とその関連資格	社会福祉士を取得後、病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務。その後、相談支援専門員として児童の計画相談業務に従事。		

《授業科目における学習内容》

学校で学んだ理論や方法を施設において体験し、個々の利用者に合わせた日常生活の介護の応用能力を養う。

《成績評価の方法と基準》

実習評価表・実習日誌記録物:100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所

《授業外における学習方法》

今まで学んだ授業内容の復習及び自己学習を自ら行う。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士についての職業理解ができ、必要な知識や技術を身につけることができるよう、意欲的に取り組む。利用者の自助におけるニーズと介護の機能ならびに施設職員の一般的な役割について学ぶ。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護実習Ⅰの流れ、達成すべき目標について理解できる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	介護実習Ⅰの流れと目標について		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場で求められる介護福祉士像を把握し、自分の課題について考えることができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	求められる介護福祉士像		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	利用者の「できること」に目を向けることの大切さについて理解できる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	ICFの視点		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	様々なコミュニケーションの方法について学ぶことができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションについて		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	一人ひとりに合わせたコミュニケーション方法について理解できる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションについて		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	個別支援を尊重した自立支援のありかたを理解し、その人らしさを引き出す支援について学ぶことができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	個別ケア、その人らしさを支える支援について		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	記録や情報収集用紙、観察、コミュニケーションを通して情報を収集する方法について理解できる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	情報収集について		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	利用者の生活史を理解し、尊敬の念をもち、コミュニケーションを行うことの重要性について学ぶことができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	生活史からみえてくる情報について		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	老化に伴う変化や障害が日常生活に及ぼす影響を理解することができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	日常生活の諸問題について		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	安全対策、事故防止の方法が分かる。残存能力を活かし、日常生活能力向上のための援助方法について考えることができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	安心安全を考慮し、残存機能を活かした日常生活の自立への援助方法を学ぶ。		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	老いの受容、生き甲斐、性、自己実現について考えることができる。施設における日常生活の自立(QOL)について考えることができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	対象者のQOLについて		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	行事やレクリエーションの主な内容や参加者にもたらす効果について理解することができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	行事やレクリエーションについて		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護者の役割と企画、運営、評価方法について学ぶことができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	レクリエーションの企画、運営、評価方法について		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	チームの一員としての介護福祉士の役割、多職種の役割、チームで働くことについて考え、多職種について理解することができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	多職種連携、チームで働くことについて		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	カンファレンスの内容、各専門職、利用者、家族の視点について学ぶことができる。	最新　介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録　滋慶教育科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	カンファレンスについて		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	介護福祉科昼間部	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科目名	情報科学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	後期 月曜1・4限	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担当教員	BSC	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

この授業では、学生がコンピュータの基本操作に習熟することはもちろん、Officeソフトの利用だけにとどまらず、現代社会において必須となるデータ分析やAI技術の基礎を学ぶことを重視します。データの活用方法を学び、実践を通じて在学中および卒業後の情報処理スキル向上を図ります。

《成績評価の方法と基準》

出席(20%)、平常点(10%)、課題・小テスト点(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「コンピュータキャリアトレーニング」※イーラーニングコンテンツ
対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。

《授業外における学習方法》

自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。
欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。

《履修に当たっての留意点》

出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	Webコミュニケーションついて正しく理解できる	情報モラル	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Webコミュニケーションの危険と対策/モバイル機器の活用と管理		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	Scratchを使ってプログラミングの基礎的な考え方を学ぶことができる	プログラミング入門	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	プログラミングとは/Scratchの基本操作/プログラミング的思考/フローチャート		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	Scratchを使って簡単なゲームを作ることができる	プログラミング体験	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ゲームを作成して完成させる		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	企業や施設が求める表計算ソフトの基本操作ができる	Excel基礎1 基本操作	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	オートフィル/数式の作成/SUM関数/グラフ作成/印刷		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関数を駆使した資料を作成できる	Excel基礎2 数式と関数基礎	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	割合を求める/相対参照と絶対参照/AVERAGE関数/COUNTIF関数/シートの操作		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	グラフを駆使した資料を作成できる	Excel基礎3 グラフ基礎	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	目的に応じたグラフ作成/グラフのレイアウト/行や列の挿入/グラフの編集		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	Excel基礎で習ったことを実践できる	Excelまとめ	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Excel復習問題の実施		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	データベース機能を理解し活用できる	Excel応用A データベース	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	データベースとは/データを並べ替える/フィルター/ウィンドウ枠の固定/大きな表を効率よく印刷する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	目的に合ったグラフを選択し、作成することができる	Excel応用D グラフ応用	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	折れ線グラフ/複合グラフ/100％積み上げグラフ/レーダー/スパークライン		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	身近なAIを知り、適正かつ有効に活用できる	AIリテラシー	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会でのAI活用事例/AIでできること・できないこと/画像認識体験/AIの欠点や問題点/人とAIとの協働		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	AIブームの背景を知り、実際に体験を通して理解することができる	AI機械学習	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	AIブームの歴史/ディープラーニング/教師あり学習・教師なし学習/予測・分類・クラスタリング/機械学習体験		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	データを読み解くための基本的な知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる	データリテラシー	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	平均/中央値/最頻値/外れ値/欠損値/異常値/データの分類/相関/因果関係/疑似相関/不適切なグラフ表現		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	Forms活用1　アンケート作成	Forms活用1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Microsoft Formsを使ったアンケートの作成方法を習得し、各自のアンケートを作成・配布できる		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	Forms活用2　～アンケート集計・分析	Forms活用2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Microsoft　Formsのアンケート結果収集と分析ができる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	分析やAI活用に適したデータを取得から加工まで効率的に扱うことができる	データクレンジング	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	データクレンジングとは/データクレンジングの具体例/データの種類/統計表における機械判別可能なデータ作成に関する表記方法（総務省　統計局）/データクレンジング実践（リスト修正）/クレンジングデータを使っての分析		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科目名	情報科学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	前期 月曜1・4限	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担当教員	BSC	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

この授業では、学生がコンピュータの基本操作に習熟することはもちろん、Officeソフトの利用だけにとどまらず、現代社会において必須となるデータ分析やAI技術の基礎を学ぶことを重視します。データの活用方法を学び、実践を通じて在学中および卒業後の情報処理スキル向上を図ります。

《成績評価の方法と基準》

出席(20%)、平常点(10%)、課題・小テスト点(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「コンピュータキャリアトレーニング」※イーラーニングコンテンツ
対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。

《授業外における学習方法》

自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。
欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。

《履修に当たっての留意点》

出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	iPadのセットアップができる	iPadセットアップガイダンス	
		各コマにおける授業予定	各種設定(wifi、office365、Teams等)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	講座を受講する意義を理解し、IT・DXリテラシーを知り、情報を正しく活用できる	CCT入門 IT・DXリテラシー	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	CCT講座を受講する意義、IT・DXリテラシーを学ぶ、IT・DXリテラシー理解度テストの実施		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	Windowsの基本操作ができる	CCT入門 PC基本操作	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	マウス・タッチパッド操作/ファイルの管理/タイピングの基礎/キーボードの機能(ショートカット等)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	生成AIを正しく活用できる	CCT入門 生成AI入門	タイピング練習をすることで予習復習を行う。
		各コマにおける授業予定	プロンプト練習/使用する際の注意点/滋慶学園ガイドラインに沿ったAI活用/プロンプト活用/Canva登録		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	文書作成の基本的な操作ができる1	Word 文書作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Wordの概要/ページ設定/文字の修飾/インデント/箇条書きと段落番号/均等割付		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	文書作成の基本的な操作ができる2	Word図形・グラフ・表	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	画像/テキストボックス/表の作成/表の編集/ Excelグラフの貼り付け/図形		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	Wordの機能を使用し、ポスターを作成することができる	ポスター作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認することができます。
		各コマにおける授業予定	Wordの基本操作の練習/オリジナルポスターの作成		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	Wordの機能を使用し、園・施設だよりを作成することができる	園・施設だより作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	園・施設だよりを作成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	クラウドの特徴を理解し、活用できる	クラウド活用	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Officeアプリ/OneDrive（ファイル共有）/メールマナー/Teams（共同編集）		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	スライド作成の基本的な操作ができる	PowerPointダイジェスト	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	プレゼンテーションの作成手順/テーマとバリエーション/スライド/プレースホルダー/画像の挿入/テキストボックス/図形作成/ワードアート/画面切り替え効果の設定/アニメーション効果/ノートの作成/スライドショー		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	発表用スライドを作成できる	PowerPointスライド作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	画像・図形などを活用し作成/リハーサルの実施		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	作成したスライドを使って発表できる	PowerPoint発表(1)	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	発表/評価		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	CANVAを使ってビジュアルガイドを作成できる1	ビジュアルガイド作成1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	法的責任（PL法）/画像生成、正しい画像の使い方/多面的に探る、整える、深める/正確性の確認/Canvaで資料作成（ガイドブック）/ワーク（共有）		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	CANVAを使ってビジュアルガイドを作成できる2	ビジュアルガイド作成2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	法的責任（PL法）/画像生成、正しい画像の使い方/多面的に探る、整える、深める/正確性の確認/Canvaで資料作成（ガイドブック）/ワーク（共有）		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	CANVAを使ってビジュアルガイドを作成できる3	ビジュアルガイド作成3	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	法的責任（PL法）/画像生成、正しい画像の使い方/多面的に探る、整える、深める/正確性の確認/Canvaで資料作成（ガイドブック）/ワーク（共有）		